

## 上越民商第55回

### 上越民商共済会第32回

#### 定期総会開催される①

今月7日、七夕の日に行われた上越民商と民商共済会の合同総会は、仲町の「やすね」さんで51名の参加者を集めて開催されました。当日お集まりいただきました代議員・評議員の皆様、大変ありがとうございました。

また、忙しい中、来賓として駆け付けていただきました市民連合・上越の馬場共同代表、日本共産党上越地区委員会からは上野地区委員長、上越地区労連からは布施議長、参議院選挙真っ只中、お疲れのところ大変ありがとうございました。その他、所用で参加できませんでした。国民民主党の森ゆう子議員からも祝電が寄せられました。今総会で審議された大きな改正点は、会長の交代と、会費の値上げの件でした。長年苦勞の多い会長職をこなしてこられた上野会長は、商売と会長職の両立の多忙さで心身ともに限界とし、後任に岩澤副会長（城東支部・飲食）を充て、退任されました。



上野会長は就任以来、上越民商の発展のために尽力され、民商会館のリフォームやメンテナンス、除雪などへの貢献は計り知れません。当日は長年の勞をねぎらい感謝のしるしとして記念品が贈られました。また、会費の値上げにつきましては、青木事務局長が総会方針案の中で触れ、会員の減少と会費などの未納により、ここ三年間財政赤字が続く、別途積立金を取り崩して民商の運営をはかってきた経緯を説明。一月の理事会での討議を経て総会に会費の値上げが提案された経緯も説明しました。数年前から行ってきた会員の拡大も未収金の完納も簡単にはいかなかったこと。このままだと別途積立金も底をつき、どこか

らか借金をしなくてはやっていけない状況になることなどが話され、ここは止む無し。会員の皆さんから会費の値上げ（来月八月より月500円の会費の値上げ）ということ協力をいただき、民商の財政的窮地を脱したいとの提案でした。

もちろん、経費の節約、会員拡大は引き続き取り組むとのこと。会員の皆様への負担が最小限で済むように値上げ幅を低く抑えましたが、再値上げが暫くないように民商運営も考えていきたいとのこと。民商を取り巻く環境は大変厳しいものがありますが、新年度方針案・予算案・役員案などが無事に採択・了承されました。

活動報告では、山本共済会理事長より、この一年間の共済会の活動について報告がありました。「民商本体の財政事情の悪化は、民商共済会の財政をも圧迫しており、共済会員への補助金の削減として表れてきている。何といつても健康でないと商売は続けられない。その為にも健康診断は毎年欠かさず受けて欲しい。」と訴えました。

その他に、青年部の活動、主に今年初めて取り組まれた「商工フェス」について、歌川青年部長より報告がありました。「長年、活動らしき活動がされずにきた青年部でしたが、最初は部会で集まった三人が自分たちの商売をアピールしようとして漠然と計画した商工フェスというイベントでした。だけど、



だった青年部員たちを熱心に誘いながら、一つの目標に皆が取り組んでいくことによって、団結が生まれていった」という様子が熱く語られました。経験が人を育てるんです。若い人たちの今後が期待されます。

第一部の総会が終わり、第二部として元新発田民商の事務局長だった菅原典夫氏から、「消費税10%引き上げの問題点と増税中止への展望」と題して一時間程度の講演をしていただき、大まかに整理すると、問題点①増税は10%で終わらないこと②申告計算の複雑さ③インボイス方式での非情な選択の強要などです。そもそも存在自体が悪税であるという議論は傍らに置いて、今年10月から10%にしようという企みを阻止するためにどうすればいいのか？



それが肝心で、有識者や財界からも「今、消費税は上げるべきではない」との意見が多数寄せられているし、世論調査でも半数以上の人々が増税に反対している。国民が政府にNO！を突きつければ増税は出来ない。そこにこそ展望がある。実際、マレーシアでも2018年5月の総選挙で「野党連合」が勝利し、消費税6%が0%になった。逆立ちした税制を正せば財源はある。野党はバラバラでは勝てない。「市民と野党の共闘」で、後は参議院選挙の残された期間の奮闘が、中小業者の生死を左右するとし、選挙戦での奮起を促されて終了しました。終了後は質問が数件出され、質問者の真剣な眼差しが印象的でした。菅原さん、遠方から大変ありがとうございました。

字数の関係で、岩澤会長の就任の挨拶等は次号にさせていただきます。

いよいよ選挙も終盤。

あなたの一票が、生活を変えます。

あなたの一票で、日本も変わります。

